

山形美術館 令和7年度事業報告

概要

令和7年度の公益事業は、春に「まるごと馬場のぼる展」、夏に「古代エジプト美術館展」、秋には「小野皓一展 / サイトユフジ展」、冬は「富岡鉄斎 紅花商人ゆかりの⑩長谷川コレクション」「山形銀行所蔵品によるやまがたの風景」、以上5本の企画展を開催した。さらに山形県民の美術振興を図る3県展を実施した。

収蔵品展事業においては、長谷川コレクション、服部コレクション、吉野石膏コレクションの作品を、テーマを設けて年間を通して展示し、収蔵品の魅力を紹介した。また創作活動を行う個人・団体に対する19の展示施設貸与事業を行った。

そのほかキャンパスメンバーズ制度に継続して取り組むとともに、収蔵品の貸出し協力、「博物館実習」における大学生の受入れ指導を行った。また視覚障がい者向けアプリ「ナビレンス」を設置する社会実験への協力など美術館のアクセシビリティ向上に努めた。

これら公益事業関連の展覧会総入場者数は歴代8位、2006年以来19年ぶりに13万人を上回る134,815人となった。昨年度の81,959人と比較すると、企画展事業と収蔵品展事業で53,245人の増加、展示施設貸与事業で389人の減少、合計で52,856人の増加となった。

収益事業は、1階の喫茶室「ブーローニュ」の営業、およびミュージアムショップでの企画展や収蔵品展に合わせたグッズ・書籍の取扱いを実施した。

法人運営および施設管理では、適切な収蔵品管理に努め、空調機器や照明器具の修繕等を行い、設備・内装・備品などの点検、長期改修計画を検討した。

1. 公益事業

① 企画展事業

山形県民はじめ広く美術愛好者に、国内外の優れた美術作品および関連資料を鑑賞する機会を提供する以下の事業を行った。

4月11日—5月25日 まるごと馬場のぼる展 描いた つくった 楽しんだ ニャゴ！

絵本「11ぴきのねこ」シリーズの作者として知られる青森県三戸町に生まれた漫画家・馬場のぼる(1927-2001)が描いたデビュー作『ポストくん』や『ブウタン』などの代表的な漫画や、絵本の原画のほか、50年間描きためた秘蔵のスケッチブック、絵画や立体作品などの多彩な作品や資料、約500点を展示した。関連事業として元こぐま社編集長の関谷裕子氏による記念講演会「「11ぴきのねこ」と馬場のぼる先生～本物のユーモアを求めつづけて～」(4月12日)や、「11ぴきのねこ」との写真撮影会(4月13、26日、5月5日)、浪曲と人形劇による馬場のぼる作品の上演「きつね森の山男」(4月20日)、東北文教大学児童文化部による「絵本の読み聞かせ」(4月27日、5月11日)の開催に加え、来場特典として中学生以下の子どもを対象に「11ぴきのねこ」のぬりえプレゼントを行った。いずれも大学、人形劇団、出版社ら他機関との連携による催しとなった。以上により、漫画家・馬場のぼるの創作世界の全容を、幅広い世代に発信した。

(入場者 30,253人)

7月11日—8月23日 古代エジプト美術館展

日本唯一の古代エジプト専門美術館として、2009年東京・渋谷に開館した「古代エジプト美術館 渋谷」の2000点以上にのぼるコレクションより、世界的に貴重な遺物であるミイラやミイラマスク、人型木棺、

神殿の石柱、ツタンカーメンの指輪をはじめ、当時の生活様式がわかる化粧用など日常で使用されていた容器や装飾品を含む約 200 点を展示した。会期中は同館館長の菊川匡氏によるギャラリートーク (7 月 11、12 日)や、同館 CMO の長富信人氏によるワークショップ「あなただけのアミュレット(お守り)を作ろう! in 山形」(7 月 12 日)、ジャズやゴスペルによる来館者歓迎イベント(7 月 13、19 日)、芸人の平井“ファラオ”光氏による古代エジプトタロット占い(7 月 19、20 日、8 月 16、17 日)、駒澤大学教授の大城道則氏による記念講演会「古代エジプト神話と崩れピラミッド」(7 月 20 日)、紅花染指導者の大山り子氏による紅花染のワークショップ「紅花染めー1%の紅をたのしもう!」(7 月 26 日)、県埋蔵文化財センター調査研究専門員の水戸部秀樹氏による記念講演会「エジプトでの発掘調査に参加してー庶民の暮らしを明らかにするアコリス遺跡ー」(7 月 27 日)、作家の黒木あるじ氏をナビゲーターとする「親子で楽しむナイトミュージアム」(8 月 2 日)、ギャラリートーク「担当学芸員と巡る「古代エジプト美術館展」」(8 月 4、11 日)、山形大学大学院文化コーディネート実習の一環として同大院生の岡田千瑛莉氏によるワークショップ「判子で彩る古代エジプトの世界」(8 月 9 日)を開催。多彩な催しにより、古代エジプト文化の魅力と最新の研究状況を紹介した。(入場者 52,899 人)

8 月 30 日—9 月 15 日 第 80 回記念 山形県総合美術展

山形県の美術振興と美術家のレベル向上を目指して毎年開催している県内最大の公募展。日本画、洋画、彫刻、工芸に加えて80回展を記念して特設されたイラストレーション、以上5部門に搬入された559点を、西田俊英(日本画)、大内田敬(洋画)、池田秀俊(彫刻)、赤沼潔(工芸)、青山ひろゆき(イラストレーション)の5氏が厳正に審査。会場には、入賞・入選、審査員、委嘱、無鑑査の作品、東北芸術工科大学教員の招待作品など、合わせて479点を展示した。作者の思いが見る人に伝わる作品や、新しい技法に挑戦する意欲作などが並んだ。また80回を記念し委嘱・無鑑査作家らの「色紙・小作品入札会」コーナーを設けた。第67回こども県展には、県内の園児、小中生から11,787点の応募があった。元帝京大学教授の辻正博氏が審査した結果、すべての年齢の作品から表現活動に真面目に取り組んでいる姿を強く感じたと総評し、3階会場に入賞・入選1,007点を展示した。(入場者 7,499人)

9 月 20 日—10 月 5 日 第 50 回記念 山形県総合書道展

山形県内および出身者の書家、書道愛好家から作品を公募し開催した。漢字・かな・調和体・近代詩文・少字数・篆刻の6部門に、高校生から90代までの幅広い年代の書家・書道愛好家から一般公募199点、役員・会友250点を合わせ449点の作品が搬入された。50回展を記念し、中央書壇より文化功労者・日本芸術院会員の高木聖雨氏を審査員長に迎え、県内の書家である青柳祥雲、植松龍祥、高橋欽崖、小池逢花、我彦芳柳、植松慈、早坂恵春、瀧井光邨、井上溪舟、卯月翠峰の11氏による審査の結果、県知事賞など入賞13点、奨励賞15点、褒状30点、入選144点が厳正に選抜された。会場には入賞・入選作に審査員長、審査員、役員、会友の書作を加え412点を展示。漢詩や近代詩、漢字一文字などを題材に、線質や文字のバランス、余白の美にこだわった個性あふれる労作が並んだ。会期中は関係者による開会式と青柳祥雲氏による作品解説会(9月20日)や、初めての試みとして一文字書のワークショップ(9月27日)を実施。多くの人が書の魅力や作品の良さに触れられる機会とした。会期終了後、出品全作品を掲載した記念作品集を作成した。(入場者 2,370人)

10 月 31 日—11 月 16 日 小野皓一展 / サイトユフジ展 座り心地の悪い椅子

小野皓一(1946 年石巻市生まれ、山形在住)とサイトユフジ(1949 年山形市生まれ)、山形ゆかりの作家で、いずれも日本社会が激変する 1970 年代前後に学生時代を過ごし、東西冷戦構造のヨーロッパで自らの絵画の思索を深めた二人の作家それぞれの活動の軌跡と現在の多彩な表現を紹介した。「物質と時間」を一貫して追究する小野皓一は、完成から 26 年越しに構想通りの展示となる縦約 4 メートルの連作 5 点を含む約

70 点、サイトユフジはウィーン滞在時から収集したオブジェや人間の内面を映し出す多彩な絵画や立体など約 130 点を展示。会期中、小野皓一氏(11 月 1、9 日)とサイトユフジ氏(11 月 2、8 日)による自身の歩みや創作の意図を語るギャラリートークを実施し、それぞれの感性が息づく表現世界を広く知っていただく機会とした。(入場者 2,360 人)

12 月 12 日—2026 年 1 月 25 日 富岡鉄斎 紅花商人ゆかりの㊦長谷川コレクション

独自の画風で明治、大正期に活躍し高く評価され、「最後の文人画家」とも称された富岡鉄斎(1836-1924)の作品を、当館ゆかりの㊦長谷川コレクションから紹介した。紅花商人を先祖に持つ㊦長谷川家と鉄斎は、京都在住時の近所づきあいから親交を深め、鉄斎が同家のために描いた作品が残る。画帖や屏風、手紙などを仕立てた掛け軸、扁額など約 40 点が並んだ。会期中には 12 月 13 日、本展監修者・村田隆志氏による記念講演会「富岡鉄斎の豊かな芸術世界—㊦長谷川家ゆかりの作品を中心に—」、1 月 10 日、東北芸術工科大学総合美術コースによる「山美のキッズデー」(10:30- キッズギャラリートัวร์「こどもアートたんけんたい」、13:30- ワークショップ「マイ掛け軸をつくろう!」)を行った。幅広い世代の県民に、文人画の世界を今に伝える鉄斎の魅力と、当県の歴史文化がもたらした美術の世界に親しんでいただく機会とした。

(入場者 5,703 人)

12 月 12 日—2026 年 1 月 25 日 山形銀行所蔵品によるやまがたの風景

2022 年に続く 2 回目の山形銀行所蔵品によるテーマ展として開催。菅野矢一や真下慶治、今野忠一ら本県ゆかりの作家 33 名の洋画・日本画を 40 点展示した。同時開催の「富岡鉄斎展」とともに、幅広い世代の県民に、県内各地の風景が織りなす多様な表現世界を紹介した。(入場者 5,703 人)

2 月 19 日—3 月 22 日 第 60 回記念 山形県写真展

県内の写真愛好家の質的向上と相互交流を目的に 1967 年に第 1 回展を開催してから、今年度で 60 回を迎えた。本展には、9 歳から 96 歳までの 390 名から 1,679 点の一般公募作品が搬入。日本写真芸術専門学校校長で写真家のハービー・山口氏による 2 日間にわたる審査によって、入賞 12 点、特別賞 1 点、準入賞 10 点、努力賞 10 点、入選 416 点が選ばれた。会場には入賞・入選公募作品に審査員と無鑑査作品を加え計 466 点を展示。県内各地の祭りや伝統行事、四季折々の風景、人物スナップ、動物などにテーマ性や斬新な視点が感じられる力作が並んだ。YouTube の当館公式チャンネルで、ハービー・山口氏による審査講評などの動画を公開した。また会期中の 3 月 7 日にハービー・山口氏によるトークイベント、3 月 20 日には山形交響楽団メンバーによる弦楽四重奏コンサートを開催した。(入場者 6,685 人)

② 収蔵品展事業

山形美術館では、日本の美術、山形関係の美術、フランス近代美術の 3 分野について、美術作品および関連資料の収集と調査研究を進めている。本年は、1 階第 1 および第 2 展示室において、長谷川コレクション、服部コレクション、吉野石膏コレクションを、テーマを設け通年にわたって紹介した。

フランス近代絵画の精華 服部コレクション・吉野石膏コレクション

印象派からエコール・ド・パリまで、多様な作品が揃う「吉野石膏コレクション」と、現代フランス絵画の巨匠たちを中心とした 20 世紀フランス美術の「服部コレクション」から、19 世紀から 20 世紀後半までのフランス絵画の多彩な作品を 7 つのテーマを設けて展示した。印象派、ポスト印象派、フォーヴィスム、キュビズム、抽象、シュルレアリスム(超現実主義)など、新しさを追求した近代美術の展開と戦後フランス絵画の伝統と革新が織りなす豊穡な響き合いを紹介した。(入場者 9,851 人)

4月11日－6月1日 印象派―光を捉える

ピサロ、シスレー、セザンヌ、モネ、ルノワールなど 27 点

6月3日－7月6日 没後 40 年 マルク・シャガール特集展示

ピサロ、マネ、シスレー、モネ、ルノワール、ヴラマンクとシャガール作品 15 件を含む 27 件

7月11日－8月23日 人物を描く

モネ、ルノワール、ボナール、マティス、ルオー、ピカソ、ローランサンなど 19 点

8月30日－10月26日 静物画と風景画

ピサロ、シスレー、ルノワール、マティス、ヴラマンク、ブラック、ミロなど 19 点

10月31日－12月7日 エコール・ド・パリの画家たち

ヴァン・ドンゲン、ユトリロ、ローランサン、シャガール、キスリング、荻須高德など 28 点

12月12日－1月25日 吉野石膏コレクション名作選 1

ピサロ、マネ、モネ、ルノワール、ゴッホ、ヴラマンク、シャガール、ミロなど 60 点

1月14日－3月22日 吉野石膏コレクション名作選 2

ピサロ、マネ、モネ、ルノワール、ゴッホ、ルオー、ヴラマンク、シャガールなど 30 点

紅花商人ゆかりの名品―長谷川コレクション

紅花商人ゆかりの二つの長谷川家から寄贈を受けた全 292 点で構成される日本美術「長谷川コレクション」を紹介する展示を行った。江戸から明治にかけての多彩な作品を、下記 7 つのテーマに沿って通年にわたり紹介した。(入場者 9,851 人)

4月11日－5月25日 描かれる動物たち

狩野常信、周信、岑信《柳猿猴図》、渡辺華山《溪澗野雉図》など 15 点

5月28日－7月6日 季節の情景―梅雨から夏へ

谷文晁《熊野舟行図》、菅原白龍《山水図》、川合玉堂《細雨》など 11 点

7月11日－8月23日 芭蕉の短冊と蕪村の屏風

与謝蕪村《奥の細道図屏風》、松尾芭蕉《出羽三山短冊》、横山華山《紅花屏風》など 12 点

8月30日－10月26日 長谷川コレクションの書画、彫刻、工芸

周之冕《蘆鴈図》、狩野安信《達磨竹雀枯木鳥図》、岡田半江《米法山水図》など 14 点

10月31日－12月7日 文人画をたのしむ

田能村竹田《浅絳山水図》、高橋草坪《竹筍蜻蜓図(若竹蜻蜓図)》など 17 点

12月12日－1月25日 富岡鉄斎 紅花商人ゆかりの⑩長谷川コレクション

企画展と併せて収蔵品の⑩長谷川コレクションより富岡鉄斎作品 18 点

1月28日－3月22日 吉祥のシンボルたち

熊代熊斐《松鷲梅孔雀図屏風》、月僊《麒麟鳳凰図》、谷文晁《慈母観音図》など 15 点

本年度新収蔵品は寄贈 83 件、寄託 26 件である。桜井浜江《人物(I)》など、人物・壺・樹などを描いた作品 54 点、福王寺法林《ヒマラヤ風景図》二曲一隻屏風、新海竹蔵《阿部信治翁(石膏作品)》、そして谷文晁《白梅図》、菊田伊洲《秋景山水図》、今野可啓《聖観音菩薩》《牡丹図》、服部旭峰《山水図》、小松雲涯《雪中犬図》、後藤松亭《山水図》、新井翠圃《竹に雀図》、服部午山《嵩笑》など、郷土作家の作品を中心とした 27 点を受贈した。また寄託作品としては、「富岡鉄斎展」で借用した⑩長谷川家の鉄斎作品 26 点を受託した。今期末での寄託品を除く収蔵品件数は、基本財産収蔵品の一般正味財産(購入)505 件、指定正味財産(寄贈)1,295 件、合計 1,800 件となった。

③ 展示施設貸与事業

美術に関する創作活動を行っている個人および団体に対し、当館の展示室と展示用備品を貸与する事業を行った。本年度は、山形県水彩画会展、創琢書道展、日展山形会展、山形県民ふれあい書道展、示現会山形展、樺墨書院展、山形市芸文協総合展、Rei Masaka Exhibition 2025「GHOST」、毎日書道展東北山形展、読売書法展東北展、山形県医家美術展、北展(会員会友・公募展)、墨華会書道展、MOA 美術館山形県児童作品展、タカオ病氣から病喜へ感謝個展、東邦書道会全国展、誠筆書展、山形県健康福祉祭美術展、山形デザイン専門学校卒業進級制作展、以上 19 の展覧会を開催した。

④ その他

収蔵品を活用した事業や指導など以下の事業を行った。

1. 山形美術館キャンパスメンバーズ制度の実施

学校教育等における当館の有効活用を目的に、平成 29 年度から設けた「山形美術館キャンパスメンバーズ制度」を本年度は 9 校が利用。常設・企画展の常時入館無料のほか、授業での解説指導等を実施した。

2. 収蔵品館外貸出による他機関への協力

福島県立美術館で開催された「福島アートアニュアル 2025 site—representation 土田翔/鈴木悠哉」に小松均《最上川源流》、山寺芭蕉記念館で開催された「⑩長谷川コレクション展—日本美術の精華—」に川合玉堂《細雨》など 7 件を貸し出したほか、「円山応挙—革新者から巨匠へ」(三井記念美術館)、「HOKUSAI—ぜんぶ、北斎のしわざでした。展」(日本テレビ放送網)、「妖怪博覧会—もののけ、その歴史と物語—」(山寺芭蕉記念館)、「桜井浜江後期作品展」(三鷹市桜井浜江記念市民ギャラリー)、「庄内の美術家たち 21 斎藤墨湖と田中静居—幽境なる日本画の世界へ」(鶴岡アートフォーラム)など、他機関の企画展に対し収蔵品の貸出協力を行った。

3. 吉野石膏コレクションの寄託解除

1991 年から当館への寄託が開始された吉野石膏コレクションについて、吉野石膏が都内で整備を進めている文化施設の収蔵庫で美術品管理を行うようにするため、一部作品の寄託契約が解除された。

4. 博物館実習生および文化コーディネート実習生の受け入れと指導

博物館実習では、東北芸術工科大学、長岡造形大学、八洲学園大学、昭和音楽大学の学生 10 名をのべ 6 日間受け入れ、美術館の機能と業務概要、資料の保存管理、地域における美術館のあり方などについて指導した。また山形大学大学院地域教育文化研究科の必修科目である文化コーディネート実習においては、1 名をのべ 80 時間受け入れ、夏の企画展の関連イベントとしてワークショップを開催し、文化振興の実践的なコーディネート力の向上を図る指導を行なった。

5. 美術教育普及活動への協力

東北芸術工科大学芸術学部総合美術コースの松村泰三教授と同コース 3 年の学生らが吉野石膏コレクションを中心としたフランス近代美術作品について鑑賞ガイドシートを作成し、多様な視点から作品を楽しむツールとして展示室に設置した。

6. 視覚障がい者向けアプリ「ナビレンス」を設置する社会実験への協力

9 月から 2 月にかけて、「山形美術館に視覚障害者向けアプリ「ナビレンス」を設置する社会実験」

(主催、BeHereNow 企画)を実施。同アプリの QR コードを館内に設置し、音声で読み上げられる作品解説をもとに、誰もが鑑賞できる環境の実験を行なった。8回の体験会には障がい者・ボランティア・自治体・関係団体・市民が参加し、対話型鑑賞を通じて、みんなで楽しむ美術館や社会包摂のあり方を考える機会とした。県内外の自治体や美術館の視察も多く、今後「合理的配慮」と「情報保障」についての美術館が取り組むべき課題について、他機関と連携して実践と理解を深めた。

7. 美術館におけるアクセシビリティ向上のための研修会開催

12月に文化庁と独立行政法人国立美術館国立アートリサーチセンターが主催する「ミュージアム運営のためのアクセシビリティ研修」(共催、やまがたアートサポートセンターら・ら・ら)を3階ホールで開催。オンライン学習を事前に講習して参加した県内の美術館や博物館の職員、県の担当者らが、対面ワークショップを通して、多様なニーズへの対応やすぐにでも取り組めるアイデアを議論した。障がいの有無にかかわらず誰もが公平に利用できる文化施設のあり方を考え実践する機会とした。

8. 「山形美術館で会いましょう」の連載

山形新聞の文化欄(隔週木曜日)に、コラム記事「山形美術館で会いましょう」を分担執筆し、美術館の企画展や収蔵品展の話題などを紹介した。

2. 収益事業

1階の喫茶室「ブローニュ」において、コーヒーや限定メニューの提供により、鑑賞者の憩いの場となるよう努めた。また美術関係の書籍やグッズを販売するコーナーでは、展覧会図録や関連グッズなどの販売物を引き続いて取り扱った。

3. 法人運営および施設管理

老朽化した施設の修理保全を行いながら、収蔵品や企画展開催中の作品管理のため温湿度の管理に努めるとともに、今後の施設の維持活用のための長期改修計画を検討した。また年度末に、3階展示室のほか、1階事務室およびロビー等の照明のLED化工事を行なった。

4. 成果と課題

令和7年度は、幅広い年代に人気の高い漫画家による回顧展や古代エジプトの貴重な木棺やミイラなどが並んだ展覧会、山形にゆかりのある現代作家の展覧会に加え、山形の歴史文化がもたらしたコレクションによる富岡鉄斎展など、時代も国もさまざまな分野の企画展を実施した。さらに県内の美術愛好家を対象とする3県展に加え、長谷川コレクション、服部コレクション、吉野石膏コレクションをテーマごとにその魅力を紹介するなど、成果を取めることができた。

広報についても、ホームページ、フェイスブックやX(旧ツイッター)、Instagramに加え、企画展の動画配信によって、企画展概要やイベント情報を発信し、事業の周知に努めた。施設管理については、冷暖房設備にかかる部品の交換や、昨年に引き続き照明機器の交換工事を実施したほか、設備・内装・備品などの点検を行うことで円滑な美術館運営に資している。施設全体として老朽化が進んできていることもあり、今後とも適切な対応に努める。

引き続き地域機関との連携を図り、優れた芸術に触れることのできる芸術文化の中核拠点として、地域の活性化と文化振興に努める。

令和7年度 開催展覧会と入場者数

山形美術館

事業名	期間	入場者数					主催、共催、後援など	備考
		一般	高・大生	小・中学生	会員・招待	計		
まるごと馬場のぼる展 描いたつくった楽しんだ ニャゴ！	4月11日～ 5月25日	17,691	533	2,572	9,457	30,253	山美、山新、山放、山形県、県生涯学習文化財団、こぐま社、青森県三戸町、hogara ka.art、県教委、山形県芸術文化協会、山形市、山形市教委、山形市芸術文化協会	4月12日関谷裕子氏記念講演会。4月13、26日、5月5日「11びきのねこ」との撮影会。4月20日浪曲と人形劇「きつね森の山男」。4月27日、5月11日東北文科大学児童文学部による読み聞かせ。会期中は中学生以下の来場者に「11びきのねこ」のぬりえプレゼント。
古代エジプト美術館展	7月11日～ 8月23日	37,318	1,514	4,731	9,336	52,899	山美、山新、山放、古代エジプト美術館 渋谷、山形県、県生涯学習文化財団、県教委、山形県芸術文化協会、山形市、山形市教委、山形市芸術文化協会、ロバート・スティーン・ピアノキ、近藤二郎、大城道則、駒澤大学、FAIRO、関西大学、アート・プランニングレイ、西日本新聞イベントサービス	7月11日午前中開展式と菊川匡古代エジプト美術館館長トーク、午後同美術館CMO長富信人氏によるワークショップ。7月13、19日ゴスペルイベント。7月19、20日、8月16、17日芸人・平井“ファラオ”光氏の古代エジプトタロット占い。7月20日大城道則氏記念講演会。7月26日大山り子氏によるワークショップ。7月27日水戸部秀樹氏による記念講演会。8月2日黒木あるじ氏をナビゲーターとするナイトミュージアム。8月4、11日担当学芸員によるギャラリートーク。8月9日山形大学大学院生によるワークショップ。
第80回記念山形県総合美術展	8月30日～ 9月15日	4,131	126	794	2,448	7,499	山美、山新、山放、県美術連盟、山形県、県生涯学習文化財団、山形市、市教委、県芸術文化協会、県造形教育連盟、べんてる	西田俊英(日本画)、大内田敬(洋画)、池田秀俊(彫刻)、赤沼潔(工芸)の4氏による審査。記念事業として小作品入札会を実施、イラストレーション部門を特設(東北芸工大の青山ひろゆき氏が審査)。第67回こども県展を併催。8月30日表彰式。
第50回記念山形県総合書道展	9月20日～ 10月5日	830	49	95	1,396	2,370	山美、山新、山放、県総合書道会、山形県、県生涯学習文化財団、県書道連盟、県教委、山形市、市教委、県芸術文化協会	青柳祥雲、植松龍祥、高橋嶺崖、小池達化、我彦芳柳、植松慈、早坂恵春、瀧井光輝、井上溪舟、卯月翠峰の10氏ほか、審査委員長に高木聖雨氏(文化功労者、日本芸術院会員、日展理事)を招き審査、9月20日青柳祥雲氏ギャラリートーク。9月27日役員によるワークショップ。10月5日授賞式。
小野皓一展 / サイトユフジ展 座り心地の悪い椅子	10月31日～ 11月16日	1,103	38	37	1,182	2,360	山美、山新、山放、山形県、県生涯学習文化財団、山形市、武蔵野美術大学、ギャラリー東京ユマニテ、ギャラリーせいほう	11月1、9日に小野皓一氏、2、9日にサイトユフジ氏によるギャラリートークを開催。
富岡鉄斎 紅花商人ゆかりの(山)長谷川コレクション / 山形銀行所蔵品によるやまがたの風景	12月12日～ 1月25日	2,907	115	85	2,596	5,703	山美、山新、山放、山形県、県生涯学習文化財団、山形市、株式会社山形銀行	12月13日本展監修者村田隆志氏記念講演会。1月10日東北芸術工科大学総合美術コースによる「山美のキッズデー」(10:30-キッズギャラリートーク、13:30-ワークショップ)。
第60回記念山形県写真展	2月19日～ 3月22日	2,954	254	112	3,365	6,685	山美、山新、山放、県写真連盟、山形県、県生涯学習文化財団、県教委、山形市、市教委、県写真材料商組合	2月6、7日ハービー・山口氏による審査(非公開)。3月7日ハービー氏によるトークイベント。20日山形交響楽団メンバーによる弦楽四重奏コンサート。3月22日授賞式。
企画展 計(A)		66,934	2,629	8,426	29,780	107,769		

[収蔵品によるテーマ展]								
フランス近代絵画の精華 吉野石膏コレクション・ 服部コレクション	4月11日～ 3月22日	4,753	228	206	4,664	9,851	山美、山新、山放、山形県、県生涯学習文化財団、山形市	
紅花商人ゆかりの名品 長谷川コレクション								
収蔵品によるテーマ展 計(B)		4,753	228	206	4,664	9,851		

令和7年度 開催展覧会と入場者数

山形美術館

館主催展計 (C=A+B)		71,687	2,857	8,632	34,444	117,620		
---------------	--	--------	-------	-------	--------	---------	--	--

[展示施設貸与事業など]

事業名	期間	入場者数					主催、共催、後援など	備考
		一般	高・大生	小・中生	会員・招待	計		
山形県水彩画会展	5月21日～25日	635	-	-	-	635	山形県水彩画会	
創琢書道展	5月29日～6月1日	535	-	-	-	535	創琢書道会	
日展山形会展	6月6日～15日	1,010	-	16	634	1,660	日展山形会、山形新聞・山形放送	
山形県民ふれあい書道展	6月19日～22日	648	15	49	688	1,400	山形県民書道会	
示現会山形展	6月27日～29日	312	7	43	363	725	示現会、示現会山形支部	
樺墨書院展	7月2日～6日	1,181	-	-	-	1,181	樺墨書院	
山形市芸文協総合展覧会	10月8日～13日	3,550	-	-	-	3,550	山形市、市教委、市芸術文化協会	
Rei Masaka Exhibition 2025「GHOST」	10月10日～13日	159	-	-	-	159	眞坂麗	
毎日書道展東北山形展	10月15日～19日	284	16	13	1,337	1,650	毎日新聞社、毎日書道会	
読売書法展東北展	10月22日～26日	312	10	18	1,039	1,379	読売新聞社、読売書法会	
山形県医家美術展	11月20日～24日	539	-	-	-	539	山形県医師会	
北展会員会友展・公募展	11月20日～24日	560	-	-	-	560	東北現代美術協会	
墨華会書道展	11月28日～30日	460	-	-	-	460	墨華会	
MOA美術館山形県児童作品展	11月29日～30日	268	-	-	-	268	MOA美術館山形県児童作品展実行委員会	
タカオ病氣から病喜へ 感謝個展 絵画&華	12月3日～7日	421	-	-	-	421	三谷隆夫	
東邦書道会全国展	12月4日～7日	522	-	-	-	522	東邦書道会	
誠筆書展	1月29日～2月1日	539	-	-	-	539	誠筆会	
健康福祉祭美術展	2月6日～8日	459	-	-	-	459	山形県社会福祉協議会 山形県老人クラブ連合会	
山形デザイン専門学校卒業進級制作展	2月13日～15日	553	-	-	-	553	山形デザイン専門学校	
展示施設貸与事業計(D)		12,947	48	139	4,061	17,195		

全展覧会 総計(E=C+D)		84,634	2,905	8,771	38,505	134,815		
----------------	--	--------	-------	-------	--------	---------	--	--

令和7年度新収蔵品リスト

令和8年3月31日現在

○寄贈

作 者 名	作 品 名	制作年	材 質 ・ 技 法	寸法(cm)
谷文晁	白梅図		紙本墨画	121.9×51.0
菊田伊洲	秋景山水図	1816 か	絹本墨画淡彩	96.4×33.9
設楽東玉斎松昌	仙人之図(対幅)		紙本着色	各 115.1×50.4
関袖江	大和耕作図		絹本着色	110.0×54.5
今野可啓	聖観世音菩薩		絹本着色	105.8×41.7
今野可啓	牡丹図		紙本着色	120.2×32.0
今野可啓	紅葉山鳩図		絹本着色	111.5×36.4
今野可啓	雪中廬雁図		絹本着色	121.2×51.6
福王寺法林	ヒマラヤ風景図	1984	紙本墨画	132.0×156.0 外寸 149.5×174.0
設楽梅干	鍾馗図		紙本墨画	106.8×40.9
設楽梅干	八方毘沙門天之幅		紙本着色	95.5×38.5
設楽梅干	達磨渡海図		紙本墨画	66.2×28.8
西塔太原	山水図		紙本墨画	39.6×40.3
服部武陵	雪景図		紙本墨画	111.3×28.7
服部旭峰	山水図		紙本墨画	46.4×19.2
服部旭峰	山水図		紙本淡彩	132.3×31.8
服部旭峰	山水図(山桜)		紙本淡彩	103.0×30.0
服部旭峰	山水図(対幅)		紙本墨画淡彩	各 131.0×58.2
小松雲涯	山水図	1914 初春	紙本墨画	132.0×50.0
小松雲涯	雪中犬図		紙本墨画淡彩	135.6×43.8
雲塘(長谷川雲塘?)	水鳥図		紙本淡彩	134.7×34.0

市村松塙	山水図		紙本墨画	130.0×33.1
市村松塙	山水図	1918	紙本墨画	131.5×33.7
佐藤旭真	花見図		紙本着色	139.1×32.9
後藤松亭	山水図	1928	紙本墨画	137.0×33.7
荒井翠圃	竹に雀図		紙本墨画淡彩	131.3×29.9
作者不詳	和歌漢詩書画俳句 諸種伯合作		絹本着色	120.4×37.3
桜井浜江	壺(III)	1946	キャンヴァス・油彩	22.7×15.8
桜井浜江	わさび	1970	キャンヴァス・油彩	15.8×22.7
桜井浜江	りんどう	1970	キャンヴァス・油彩	33.4×24.3
桜井浜江	壺(II)	1974	キャンヴァス・油彩	27.4×22.2
桜井浜江	樹(IV)	1979	キャンヴァス・油彩	31.8×40.9
桜井浜江	木	1980	キャンヴァス・油彩	40.9×31.8
桜井浜江	樹(II)	1980	キャンヴァス・油彩	45.5×37.9
桜井浜江	太陽と樹	1984	キャンヴァス・油彩	60.6×72.7
桜井浜江	壺(V)or (IV)	1984	キャンヴァス・油彩	22.7×15.8
桜井浜江	あじさい花	1985	キャンヴァス・油彩	60.6×72.7
桜井浜江	ゆず	1986	キャンヴァス・油彩	14.0×18.0
桜井浜江	葉(I)	1986	キャンヴァス・油彩	53.0×45.5
桜井浜江	花(I)	1989	キャンヴァス・油彩	53.0×45.5
桜井浜江	富士	1989	キャンヴァス・油彩	53.0×45.5
桜井浜江	バラ	1989	キャンヴァス・油彩	40.9×31.8
桜井浜江	樹(I)	1990	キャンヴァス・油彩	45.5×53.0
桜井浜江	花	1991	キャンヴァス・油彩	27.3×22.0
桜井浜江	富士(未完)	1991	キャンヴァス・油彩	45.5×53.0

桜井浜江	波	1993.9	キャンヴァス・油彩	33.4×24.3
桜井浜江	椿	1994	キャンヴァス・油彩	15.8×22.7
桜井浜江	人物(I)	1998	キャンヴァス・油彩	116.7×91.0
桜井浜江	顔(II)	1998	キャンヴァス・油彩	22.7×15.8
桜井浜江	壺(I)		キャンヴァス・油彩	40.9×31.8
桜井浜江	壺		キャンヴァス・油彩	40.9×31.8
桜井浜江	壺		キャンヴァス・油彩	22.7×15.8
桜井浜江	壺		キャンヴァス・油彩	27.3×22.0
桜井浜江	壺		キャンヴァス・油彩	22.7×15.8
桜井浜江	壺		キャンヴァス・油彩	22.7×15.8
桜井浜江	壺		キャンヴァス・油彩	22.7×15.8
桜井浜江	壺		キャンヴァス・油彩	22.7×15.8
桜井浜江	顔		キャンヴァス・油彩	33.4×24.3
桜井浜江	顔		キャンヴァス・油彩	27.3×22.0
桜井浜江	顔		キャンヴァス・油彩	22.7×15.8
桜井浜江	顔		キャンヴァス・油彩	18.2×14.2
桜井浜江	花		キャンヴァス・油彩	27.3×22
桜井浜江	花		キャンヴァス・油彩	53.0×45.5
桜井浜江	花(VII)		キャンヴァス・油彩	33.4×24.3
桜井浜江	花		キャンヴァス・油彩	22×27.3
桜井浜江	木		キャンヴァス・油彩	27.5×22.4
桜井浜江	(松)		キャンヴァス・油彩	24.3×33.4
桜井浜江	樹		キャンヴァス・油彩	22×27.3
桜井浜江	樹		キャンヴァス・油彩	15.8×22.7

桜井浜江	樹		キャンヴァス・油彩	22×27.3
桜井浜江	樹		キャンヴァス・油彩	24.3×33.4
桜井浜江	(松葉)		キャンヴァス・油彩	15.8×22.7
桜井浜江	椿		キャンヴァス・油彩	22×27.3
桜井浜江	(花)		キャンヴァス・油彩	40.9×31.8
桜井浜江	パレット	1988	板・油彩	15.0×22.0
桜井浜江	パレット		板・油彩	15.8×22.5
桜井浜江	パレット		板・油彩	18.0×25.0
桜井浜江	「松の大樹」		段ボール・油彩	15.5×17.1
桜井浜江	制作への想い「心の底から……」		板(ペニヤ)・油彩	28.0×31.0
桜井浜江	「人物(50)」		板・油彩	21.3×32.3
桜井浜江	「樹」	1988	段ボール・油彩	24.5×32.7
服部午山	嵩笑	1952.2	木彫	高 38.0×幅 14.0 ×奥行 13.5
新海竹蔵	阿部信治翁(石膏作品)	1945	石膏	高 61.0×幅 50.5 ×奥行 36.3

※以上の美術品 83 件を基本財産収蔵品(不可欠特定財産)とする。

○寄託

作 者 名	作 品 名	制作年	材 質 ・ 技 法	寸法(cm)
富岡鉄斎	水墨山水図	1874	絹本淡彩	122.5×40.2
富岡鉄斎	天保九如図		絹本墨画淡彩	126.0×44.2
富岡鉄斎	疎林茅屋図		紙本墨画淡彩	147.8×50.0
富岡鉄斎	唐陸羽煮茶図		絹本墨画淡彩	115.5×27.8
富岡鉄斎	蝦夷人酒宴図		紙本墨画着色	125.5×42.0
富岡鉄斎	萬歳楽図		絹本墨画淡彩	102.3×35.7
富岡鉄斎	山高水長画	1895	紙本墨画着色	134.5×40.0

富岡鉄斎	勿来の関図	1899	絹本着色	144.5×45.0
富岡鉄斎	漁樵問答図	1917	絹本墨画淡彩	135.8×38.4
富岡鉄斎	観世音菩薩像	1903	絹本墨画金彩	128.0×51.5
富岡鉄斎	耆闍崛十六羅漢尊図	1917	絹本着色	130.5×49.7
富岡鉄斎	飲中八仙図	1909	紙本着色	126.5×49.8
富岡鉄斎	溪山潤適図	1917	紙本墨画淡彩	137.4×34.4
富岡鉄斎	漁樵快談図	1919	紙本墨画淡彩	162.3×47.0
富岡鉄斎	漁家楽図	1922	紙本着色	133.0×32.2
富岡鉄斎	老子出関図	1924	紙本着色	129.4×32.8
富岡鉄斎	扇面貼交屏風	1906 ほか	紙本墨画淡彩	169.5×175.5
富岡鉄斎	吉野山春景・するが宇津山秋景図	宇津山：1911 吉野山：1912	紙本着色	宇津山：146.2×146.4 吉野山：143.6×145.4
富岡鉄斎	雨後山水図	1869.8	紙本墨画	19.8×165.5
富岡鉄斎	青緑山水図		絹本着色	33.2×128.8
富岡鉄斎	盆踊図		紙本墨画	25.4×158.7
富岡鉄斎ほか	諸家貼交屏風		紙本墨画淡彩	175.7×180.7
富岡鉄斎ほか	諸家扇面貼交屏風		紙本墨画淡彩	175.7×176.8
富岡鉄斎	桜花図棚		木・墨、顔料	高 37.5×幅 32.2 ×奥行 28.8
富岡鉄斎	長谷川吉三郎宛 和歌・消息・封筒貼交	1924	紙本墨書	上：25.6×15.8 中：23.8×25.8 下：21.1×16.8
富岡鉄斎	鳶の細道図		紙・印刷	21.8×197.9

令和7年度収蔵品貸出一覧

作 者 名	作 品 名	借 受 館 又 は 借 受 者	貸 出 事 由	貸 出 期 間
小松均	最上川源流（3面）	福島県立美術館	福島アートアニュアル2025 site—representation 土田翔／鈴木悠哉	6/3－7/22
狩野章信	雲龍図	山寺芭蕉記念館	妖怪博覧会 －もののけ、その歴史と物語－	7/14－9/25
円山応挙	雪中竹梅狗子之図	三井記念美術館	円山応挙－革新者から巨匠へ	8/21－11/21
葛飾北斎	富嶽百景（102図）	日本テレビ放送網	HOKUSAI － ぜんぶ、北斎のしわざでした。展	9/2－12/3
川合玉堂	細雨 など7件	山寺芭蕉記念館	㊤長谷川コレクション展 －日本美術の精華－	9/25－11/27
桜井浜江	富嶽[絶筆]	三鷹市桜井浜江記念 市民ギャラリー	桜井浜江後期作品展	10/16-11/27
斎藤墨湖	白鸚鵡図 など2点	鶴岡アートフォーラム	庄内の美術家たち21 斎藤墨湖と田中静居 －幽境なる日本画の世界へ	12/5－3/21